

令和元年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

カガナ カゲヤマホナミ
氏名 影山穂波

研究期間 令和元年度

研究課題名 在外邦人の「居住空間」とジェンダー
～インドの日本人会と日本語学校に注目して～

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者			
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究の目的は、経済のグローバル化によって急増する日本企業の海外進出にともない、アジアで生活を営むこととなった日本人の居住空間を、男女の生活のあり方注目し、ジェンダー視点から明らかにすることである。対象地域はインド南部の中心都市の一つであるチェンナイである。チェンナイは自動車製造が盛んで、日産やイスズ、三菱などの自動車メーカー関連会社をはじめ200以上の日系企業が進出している。現地で結成された日本人会では交流会や祭りなどを通じてネットワークの拡大を図っている。日本人会の役割とともに日系社会に大きな影響を与える日本語学校にも注目する。これらの調査を通して、現地の生活の課題と、日本人会の役割を調査し、居住空間の形成について明らかにする。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

チェンナイを中心にインドにおいて活動を展開している日本人会や日本語補習校を事例に、その活動の実態と人々の意識を調査し、ネットワークの意義と現地への影響を検討した。すでに調査を実施した日本人会の経緯をもとに、①チェンナイの概要、日本人会の意義や役割についてインタビューを実施した。対象は領事館職員と現地で働いている駐在員である。チェンナイの位置付けやその中で日本人会の果たしている役割、他の地域との比較などについて聞いた。②補習校の校長へのインタビューをもとに、補習校の動向、親の役割、子供たちへの教育と生活についてさぐる。③駐在員の配偶者、現地採用の女性たちにインタビューを行い、海外生活において日本人女性たちが抱える現状と課題を調査した。以上の調査を通して、ジェンダー視点から、在外邦人の居住空間について明らかにする。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

チェンナイの日本人会は700人程度の会員から構成されており、新年会や忘年会、各種サークル活動などが展開されている。そのネットワークをもとに駐在員配偶者に調査を行った。30歳代40歳代の多い駐在員の家族の課題の一つが子供の教育である。インタビューには、高校生の子供は寮にいたので日本におり、小学生の下の子供はインターナショナル校にいたという例があった。帰国子女枠をねらっていると答えた人も多かった。一方で、授業料は年間400万円近くが必要となる。大企業の場合は補助制度があり、駐在員の子どもの多くはインターナショナル校に入っていた。しかし現地採用のように補助のない場合は現地校に入れていた。現地校では地域の子供達と仲良くなれるし、多様な見方ができるようになることをメリットとして語ってくれた。通学には親の送迎が義務となっている。朝と授業後の送迎、その後の補修校や習い事など、親が付き添う。そのため、母親は子どもの生活にあわせて動く必要がある。

日本人にとって重要なもうひとつのネットワークが補修校である。補修校は午後まで英語など外国語による普通授業のあとインターナショナルスクールの一角を借り切って2時間行われている。学年ごとに担当教員がおり、日本で基礎科目を学ぶ。子どもたちは朝から晩まで学校で過ごすこととなり、忙しい毎日を送っている。しかし気楽に日本語を話せる補修校は、外国語での授業の後で、疲れてはいるものの発散の場にもなっているようだ。校長は「愛をもって教育をする」ことを強く語り、施設の向上に尽力していた。

現地採用で働いている女性たちにもインタビューを実施した。手厚い福利厚生のある駐在員とは異なり、賃金は安く補助もない状態だが、インドに魅力を感じてチェンナイに来て、生き生きと働いている。不満は抱えているものの、女性が一人で自立できる現在の環境に「後悔は全く無い」と語る。立場も考え方も多様な中でそれぞれの生活空間を築いている状況を明らかにすることができた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①駐在員配偶者	②現地採用	③チェンナイ	④ジェンダー
⑤居住空間	⑥ネットワーク	⑦日本人会	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本調査の分析を進めたうえで、今後学会で発表し、大学紀要等で発表する予定である。今回の滞在では集団でインタビューを行うことができたが、それぞれの個別の調査がまだ十分に行えなかった。さらなる調査を行ったうえで他の地域と比較検討し、研究を深めていくことが今後の課題である。